

アカデミック・ライティングをいかに始めるか—イントロダクションの研究ニッチの考察—

中谷 安男(法政大学)

1. 研究目的と先行研究

論文執筆や、国際学術雑誌の掲載には様々な執筆のスキルや、読者を説得するストラテジーの構築が必要となる(Nwogu, 1997; 中谷, 2013)。論文で特に重要なのは、研究目的手法を明確にするイントロダクション(Introduction)の章と考えられている。

Swales(1990, 2004)が報告しているイントロダクションの先行研究の多くは、特定の情報の流れであるムーヴ(Move)がいかに構成されているかを調査している。先行研究の成果により、この章の構成に関しては、ほぼ一定の認識が確立されている。しかし、具体的なイントロダクションの執筆において、いかなる表現をどの頻度で使うのか、明確なデータに基づいた議論がこれまであまりない。本論ではこの点に注目し、実際の学術論文のデータからコーパスを構築し分析した結果に基づき、イントロダクションにおいて論文の独自性を示す研究ニッチ(Research niche)を構築すべきか考察を行う。

2. 研究方法

まず社会科学、人文科学、自然科学それぞれ代表的な学術誌の研究論文 200 本のコーパス・データ約 150 万語を基に具体的な表記方法を検証した。本研究は、イントロダクションの章のデータを、コーパス分析ソフトである WordSmith 5.0 を活用し、他の章と比較し特徴語彙を抽出した。これらを基に先行研究で示されている記載すべき内容を確認し、論文テキストの中で具体的に、どのように使われているのか調査した。この中で、比較的頻度の高い表現方法の具体例を見て考察を行う。

3. 結果

イントロダクションでは、ニッチの確立が論文の価値を読者にアピールする最重要な要素となる。基本的な方法は、先行研究に問題点があることを示す表現を使う。また、書き手のスタンスを表わす時制を組み合わせるニッチを提示していた。具体的には、研究ニッチのために、ネガティブな表現で問題点を明示する。特に、反意的・否定的な表現を使い、引用した先行研究の限界を伝える。そこがニッチであり、書き手の論文で中心となるという表現を使う傾向があった。主に 3 つの用法がある。①否定的数量詞や否定形、②ネガティブな動詞、名詞、形容詞、③メタディスコースの反意的接合表現である。

4. 結論

最初の章の完成度が、論文の採択に大きな影響を与えるため、この結果を実際の執筆指導で活用する必要がある。特に、時制をうまく活用する執筆者のスタンスを、否定的な表現と組み合わせる研究の独自性を訴求するストラテジーを習得することは重要である。本研究で示した用法に関するコーパス分析の具体例を検証する必要がある。

参考文献

- 中谷安男 (2013)「アカデミック・ライティングにおけるModal Verb使用の検証—学術論文のIntroductionとConclusionの比較」『英語コーパス研究』第20号:1-14.
- Nwogu, K. N. (1997) The Medical Research Paper: Structure and Function. *English for Specific Purposes*, 16-2, 119-138.
- Swales, J. M. (1990) *Genre Analysis*. N.Y.: Cambridge University Press.
- Swales, J. M. (2004) *Research Genre*. N.Y: Cambridge University Press.